

地域のボランティアスクール

ふれあい

横浜みどりの学校ひまわり

2020年12月号 No.44

こんな学校があってもいいかも

(既存の教育にとらわれない学校)

ひまわりは、さつきが丘小学校の元校長が開設した全員が手弁当のボランティアスクール(私塾)です。「公立学校で苦戦する子どもたちを公立学校ではできない手法で支援する」「地域の子どもは地域で育てる」「金のかからない教育の実践」などを掲げて、9年前に開設されました。

教育の変換

校長 渡辺 正彦

新型コロナで明けた1年が、その収束も終息もみないまま終わろうとしております。大人たちにとっても、子供達にとっても経験のない困難な1年でありました。来年こそは、コロナ禍の終息を強く願いたいものです。

今回のコロナ騒動では我々の平穏な日常がいつ脅威にさらされるかわからないこと、前例踏襲が新たな脅威や変化にいかにか脆弱であるかが立証されたように思います。

変化に対応する柔軟な思考や行動は教育の世界でも同じではないでしょうか。

日本の教育は明治5年の学制発布の頃から現在に至るまで基本的には大きな変化はないように思われます。

日本の教育、特に公教育においては、知育、徳育、体育の三育をバランス良く備えた人間の育成に主眼が置かれた教育が実践なされてきました。三育にバランス良く優れた子どもは優等生として評価されてきました。有名国立大学の入学試験は、知育(知識)に重点がおかれ、それに長けた子ども達が入学を許可されました。

しかし今、教育の世界に変化の波が押し寄せてきております。

どの教科も満遍なくできる子どもに対する評価の他に、一部の教科や技能に長けている子どもを同様に評価する機運が高まりつつあります。学校は今、子どもの個性や能力により、ゼネラリスト育成とスペシャリスト育成の両方に向けて変化しなければいけません。この変化に対応できない学校や前例踏襲教育では今回のコロナ禍のような急激な困難に対応する力は半減します。

横浜みどりの学校ひまわりには、書字は苦手だが算数・数学に長けた子ども、集団は苦手だが絶対音感を有する子ども、騒音は苦手だが虫や動物に卓越した知識を有する子どもなどスペシャリストの卵達が在籍しております。彼等の多くは、ゼネラリスト育成の公立学校ではあまり評価されず、困難な学校生活を送った子ども達です。

人間の才能は教科だけとは限りません。社交性、優しさ、フットワーク、冷静さ、情熱的など多岐にわたります。HSC(ハイリーセンシティブチャイルド)の子どもの感性が小説家や作曲家に生かされ、AS(アスペルガー症候群)の子どもの集中力が研究職に生かされますように。

子ども達それぞれの個性を把握して、それを伸ばす教育こそ今、日本の社会が求める人材の育成に繋がると確信しております。

ボランティア研修会

第3回11月14日(土)

テーマ：「私にとっての遊びや休息って何？」

～親のリフレッシュ方法～

◇思いが深いからこそ難しい親子関係

◇体へのアプローチを通して

内田先生と児玉先生が、実体験からの葛藤や工夫などを話してくださいました。

第4回11月28日(土)

テーマ：「高校受験は人生の通過地点」

◇高校受験は、子供の人生の通過地点で、大切なのは高校3年間に有意義に過ごすための心と学力の準備であるという内容でした。プレスクール指導者の小中先生にお話しいただきました。

第5回12月12日(土)

テーマ：「アンガーマネジメントについて」

◇なぜ怒りをコントロールしなければならないのか

◇怒らない習慣をつくるために・・・快感覚の言葉、メタ認知、人のしあわせを祈る、夕方5時までは交感神経を優位に保つ、数字の入った目標を紙に書いて貼る
(杉本先生)

◇アンガーマネジメント的、子どもと話をする時のポイント「承認モード」について
(森下先生)



☆次回研修会をご期待ください。部外の方も参加可能です。

Try コロナ!! Chance コロナ!!

コロナ禍でもひまわりでの活動が安心・安全に行えるよう様々な支援の手が差し伸べられており、温かいご支援に感謝し有効に活用させていただきます。

かながわ生き活き市民基金を活用させていただき、増設工事をしていた手洗い場がもうすぐ完成です!! 今後は、子ども達もより清潔・快適な環境で手洗いができます。



ひまわりでは、様々な分野でご活躍中の専門職の先生方が支援をしてくださっています。

今回は、子ども家庭支援センター ケースワーカーの
森下 陽 先生 からのメッセージをご紹介します。

皆様の日ごろの活動、及び校長先生をはじめ、役員・保護者・ボランティアの皆様をリスペクトさせていただくとともに、頑張っている子ども達にも拍手をこの場を借りて贈らせていただきたいと思います。

私は現場的には児童相談所（以下児相）の一時保護所、別の児相の虐待対応相談員を経て現在は自治体の子ども家庭センターというところでケースワーカーと呼ばれ主に相談などに対応する仕事をしています。

ひまわりには、数年前から学習ボランティアとして、時間のある時に臨時的要員として参加させていただいています。資格的には（大したものはありませんが）児童福祉司（任用資格）と高校教員免許（3教科）という感じです。

ひまわりに関わらせていただいても、子ども達や保護者様からはこちらが日々勉強させていただくばかりという感じです。したがって偉そうなことは何も言えた能力でも立場でもないので、不登校に関して、見えてきた対応の実状を少しだけお伝えしたいと思います。ご存じの方も多いと思いますが、不登校事案に対応するのはやはり、学校もしくは役所の学事課や教育支援課というような部署になることが多いです。例えば児相などに関しては警察等からの虐待通告でいっぱいなのが現状です。不登校を単体事案として扱うことはほとんどありません。ただ各自は、学校以外のサポート組織にはなんらかの形でつながっていたほうがいいかと思います。ただ家族構成や所得制限等の変な壁みたいなものが存在します。あと、不登校が、病院に繋がるという意味ではありませんが、もし診療が必要なのではないかと考えた場合の現状ですが、現在、小児診療内科や児童精神の病院はどこも満員で、初診は半年後とかが、普通みたいな状況のようです。中には早く診てくれるところもありますが、そういうところは初診料が結構高かったりするので、ちゃんと調べてから行くことをお勧めします。

ということで、散文になってしまいましたが、ひまわりは居場所や学習支援だけではなく、情報ステーションとしてもかなり充実してきているように思えます。なにかありましたら、自分達だけで悩まず、校長先生はじめ、近くにいるひまわりの先生方や、なかなか会えない先生には校長先生経由でもコンタクトを取り、遠慮なく気軽にお声がけしてみてください。

日々の活動の様子

12月19日 東京都江東区青少年相談事業「こうとうゆーすてっぴ」主催の講演会にて渡辺校長が講演しました。“不登校の子どもたちの道”と題し、ひまわりを開校した体験を踏まえ、事例を交えて子どもたちの取り巻く環境や対応の仕方、子ども達の未来などについて熱弁を振っていました。



手作り季節のイベントを楽しみました。



フィールドの時間は、長縄で体力づくり。



学習ルームの様子



ひまわり畑では、人参、大根、白菜などが元気に育っています。そろそろヤーコンの収穫時期がやってきます。

★ひまわりは、7月1日より感染症対策を行い、変則的ではありますが開校致しております。ご質問・見学ご希望の方は、渡辺（090-9201-3992）までお気軽にお問い合わせください。最新情報はホームページ <http://himawari-school.jp/>、とFacebookにてアップデートしています。